

2013 NICE にほんごスピーチコンテスト

優勝 ファジナル チトラ ギンティンさん（インドネシア）

『夢の八訓』

こんにちは、私はインドネシアから来ましたファジナルと申します。皆さんは夢の八訓をご存知ですか。日本人の友達が教えてくれました。

このような言葉です。



夢のある者には、希望がある。

希望のある者には、目標がある。

目標のある者には、計画がある。

計画のある者には、行動がある。

行動のある者には、実績がある。

実績のある者には、反省がある。

反省のある者には、進歩がある。

進歩のある者には、夢がある。

私はこの言葉を聞いて、すごく心が打たれました。そして、この言葉を実践した方が沼津にいらっしゃる事を知りました。皆さんご存知でしょうか。その方は井出敏彦という方です。40年前に彼は沼津市長として仕事をされながら、日本で始めてゴミを分別する事を発案されました。彼は毎日大量に出るゴミを分別する事により多くの資源の再利用と環境改善を夢見てきました。「混ぜればただのゴミ、分ければ資源」というキャッチフレーズで全国に意識革命を起こして行きました。行動する事により実績が出来、一地方都市から始まったことが日本中に影響を及ぼし、分別ゴミ方式が普及していったのです。私が来日して、まず最初に感じたのは、どこもきれいで気持ちがいいということでした。「なぜ日本はこんなにきれいなんだろう」と思いました。沼津のアパートで生活を始めた時、ゴミの分別について説明がありました。私は「なぜこんな面倒な事をするのだろうか？」と何種類もあるゴミの分別方法に困惑しました。皆さんは何種類もあるゴミの分別をきちんと出来ますか。私はまだ全部覚えられません。時々間違えます。でも再利用出来る物と本当に捨てるしかないゴミとを分ける事は大切な事だとわかりました。そして捨てるしかないゴミだと思っていたゴミも、燃やす事により、熱が発生し、その熱で温水プールに利用していると聞くと驚いてしまいました。

ところでこの夏、私の会社では海岸へ行ってバーベキュー大会をしました。楽しんで、帰るときになったら、日本人の皆さんが声をかけ合って、来た時以上にきれいにしたではありませんか。インドネシアではバーベキューをしてもそのままにして、片付けません。私は手伝いながら「日本人はきれいにすることを大切にしているのだ」と感動しました。これは分別ゴミ方式を日々実践しているからだろうかと考えました。しかし、よく見ていると大人だけでなく、子供でも使ったものをきちんと片付け、掃除をしていました。私は日本の教育にその秘訣があるのではないかと思いました。子供の時から学んでいるので、大人になって会社で仕事をする時にも「整理整頓、清掃清潔」と言った事が出来、よい仕事が出来るのです。そう気がついた時に、私は将来の夢について、はっきりとしたものが見えて来ました。

私は近い将来に、インドネシアで幼稚園をつくりたいと願っています。そのために、働いていただいた給料の中から毎月お金を貯めています。私の国インドネシアを、大好きな日本のように美しい国にするために、私は幼児教育でその一端をにないたいと思っています。その道は決して簡単ではないでしょう。しかし、私は夢の八訓を日々口にして、井出敏彦さんを思い描く時に勇気が湧いて来るのです。日本に来る事が出来、多くを学ぶ事が出来、感謝しています。インドネシアに帰ったら、学んだ事をインドネシアの子供達に教えたいと思っています。そう思う度に、私は一日一日が尊く感じられ、この夢の実現のため、どんな困難も乗り越えて行けると信じています。

御清聴ありがとうございました。